



やまゆり

学校だより

令和4年12月12日
71号
学校長 杉本賢二

校訓 「和の心」
学校教育目標 「社会に貢献しながら自立する生徒の育成」一気づき・考え・実行するー
校内研究主題 「WEBQUを活用し学級の安定と活性化を図る」

教育重点目標 「 確かな学力の育成 」
「対話」を通して学びを高め合う

「会話」は、知っている人と話題を共有し、関係を保つ目的でします。しかし、「対話」は、考えや根拠が違う人により良い考えを導くために行います。異質な他者は排除の対象ではなく、より良く生きるための学びの対象そのものだと考えます。

小学校4年の国語で学んだ「ごんぎつね」を例にして考えてみましょう。ごんぎつねを読んだ皆さんの多くの感想は、「ごんは、かわいそう」ではないでしょうか。物語で話を進める仮の主体の「語り手」に着目して考えてみたいと思います。

まず冒頭に、「これは、わたしが小さい時に、村の茂平というおじいさんから聞いたお話です」とあります。語り手は「わたし」で、「長く村に伝えられてきた話」だと分かります。

前半、「ふと見ると、…」と語り手はごんの視点から、兵十を語っていきます。例えば、ごんは兵十を「おれと同じ一人ぼっちの兵十か」と何回も表現します。しかし、ごんの思いは読者には分かりますが、兵十には伝わらないように語られています。言い換えると、ごんの兵十への思いは、全て二人の「すれ違い」として語られています。

しかし、最後の場面で「そのとき兵十は、ふと顔を上げました」とあります。ここで初めて兵十の視点からごんが語られ、「ごん、おまえだったのか」と、ごんの思いを兵十が理解します。ごんは、どのようなきつねとして村に語り継がれてきたのでしょうか。

兵十が撃ってしまった後、それぞれの場面のごんの思いや行動を振り返り、「心に残る、忘れることができないきつね」として、加助に語った話と解釈できます。また、それが冒頭の一文につながると考えられます。思い込みやすれ違いによる悲哀について考えさせられます。

読むことは、自分を取り巻く環境や異質な他者との出会いに向き合い、自己を問うことだと思います。それは、先行き不透明な時代をどのように生きるのかを問うことと同じです。読むことは考えることであり、より良く生きることそのものではないでしょうか。

教育重点目標 「 豊かな身体の育成 」

厚生美化委員会で保健集会を開きました

12月9日(金)に厚生美化委員会が、「肌について学ぶ保健集会」を開きました。ニキビ等の思春期の肌についての学習なので、生徒はとても主体的に参加していました。指導者の中心は宮本養護教諭です。

生徒会執行部の生徒を中心に、若鮎祭で活動することが生徒会活動の中心のように思われがちですが、毎日の生活に関わるあいさつや清掃活動は、道志中学校の生徒会活動で伝統的に力を入れてきた重点活動です。また、学習や部活動、いじめや不登校の問題、委員会活動等は、若鮎祭に勝るとも劣らない重要な生徒会活動です。

肌に関わる保健の学習と共に、生徒会活動(委員会)を活性化させる重要な活動として大きな意義があった集会でした。

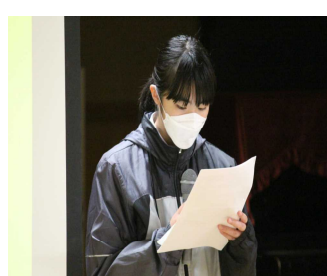
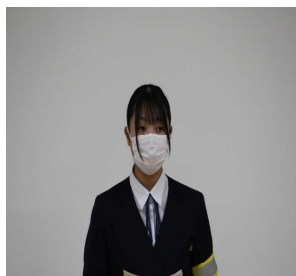
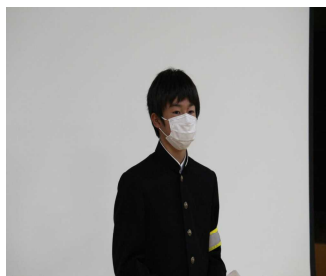
厚生美化委員会の生徒



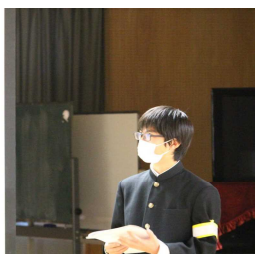
保健集会の様子



厚生美化委員がそれぞれ分担して、発表や説明をしました



合唱や太鼓演奏とともに「想いを伝える表現活動」も本校で大事にしている教育です。



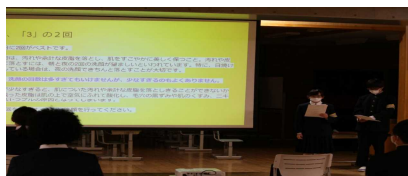
クイズを交える工夫



市川先生の講評



校長が「課題」と思うこと



表現において一番重要なのは、「伝える」情熱です。原稿に頼りすぎで、ただ読んでいる状態では、人に伝えることは難しいです。

教育重点目標 「 生徒の良さを伸ばす連携 」

3年生が「15歳の提言」に向けて準備しています

ふるさとを愛し、郷土を維持・発展させる教育を本校では大切にしています。

12月14日(水)の2・3校時に、総合的な学習の時間の発表をします。場所は多目的ホールで3年生が追求してきた道志村を維持・発展させるための学びを提言として発表します。発表を聞き、助言して下さるのは、「村長さん・議員さん・教育長さん・教育委員さん・役場の各課の課長さんや担当者さん方」です。2年生も会場で参観しながら学習します。若鮎祭で保護者の方々に参観し、助言していただいた発表が、今回の15歳の提言に繋がっています。

本校の総合的な学習の時間の担当者は、「高村江里子」先生です。今年度は、学年職員の功刀先生や山口先生だけでなく、高村先生を中心とした学校組織体制で指導をしています。

理由は三つです。まず一つ目は、少子高齢化や生産年齢人口の減少、経済的な課題等は本村だけではない日本の深刻な問題だからです。このままの状態が進行すると、道志村を始め日本の自治体の多くが消滅する可能性があります。

二つ目は、一人一人の生徒が当事者意識をもってふるさとを維持・発展させるためにはどうしたら良いか追求する学習は、先行き不透明な今後の時代を生きる力としての資質・能力を育む学習そのものだからです。

三つ目は、保育所から10年以上お世話になった教育委員会や行政の方々に、村への提言を通して貢献し、恩返しやお礼をするためです。

上記の理由を達成出来るように、全校一丸となって「15歳の提言」をより良い発表や交流の場にしたいと思えます。

発表の準備の様子

釣りに関する提言をする秀虎さん・政宗さん

子育て支援に関する提言 智加さん



学びの過程が一番大切

移住支援センター・学校の紹介等の提言 三佳さん



当日の提言の内容

ふるさと納税に関する提言をする 芳保さん



柚月さん・・「観光」への提言
 紗輝さん・・「文化・歴史」への提言
 光史さん・晟之朗さん
 「キャンプ」への提言
 優衣さん・・「道の駅・ポケモンGO」への提言

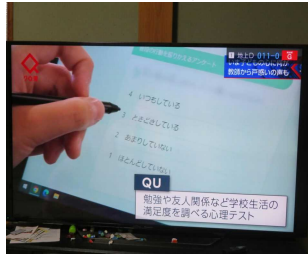
教育重点目標 「居心地が良くやる気のある学級づくり」

学校・保護者が一丸となって生徒のSOSへの対応を徹底する

12月6日にNHKで放送されたクローズアップ現代で、令和3年度の文部科学省の諸課題調査の不登校24万5千人、自殺や精神科を受診する中高生の増加等の中で、児童・生徒のSOSを大人がどう受けとめるかが重要であることが報道されました。学校と保護者の協働が大切です。

全国600以上の自治体で活用するQU調査の紹介

3年間のコロナ禍の状況と本校の対応



本校でご指導を頂いている河村茂雄教授



現状 ●不登校前年度比25%増
 ●自殺する中高生の増加
 ●不登校はどの子にも可能性あり
要因 ●孤立感・孤独感の向上
 ●不安や緊張の向上
 ●主体性低下・無気力へ
特徴 ○真面目で一生涯懸命努力する生徒
 ○相談できない児童・生徒
 ↓
本校対策 ☆観察・面接・調査の組織対応
 ☆生徒全員の個別面談の実施
 ☆保護者・SC・関係機関との連携